

令和 3 年度 京都市総合教育会議

京都市の 教育に関する大綱について

令和3年 6 月 4 日（金）

1 教育に関する大綱と京都市基本計画

2 「はばたけ未来へ！京プラン2025」の策定

3 政策の体系（17 学校教育）

4 政策の体系（18 生涯学習）

1 教育に関する大綱と京都市基本計画

○平成27年4月の地教行法改正

⇒首長は、国の教育振興基本計画を参酌し、
その地域の実情に応じ、当該地方公共団体の教育、
学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱を
定めること。

○本市においては、第1回総合教育会義（H27.4.9）
において、京都市基本計画を「京都市の教育に関する大
綱」に位置付け

⇒ 「はばたけ未来へ！京プラン2025」を、
改めて「京都市の教育に関する大綱」に位置付ける。

1 教育に関する大綱と京都市基本計画

第1回総合教育会義（H27.4.9）において「京都市の教育に関する大綱」に位置付け

はばたけ未来へ！ ^{みやこ}京プラン
京都市基本計画（第2期）
<平成23（2011）～令和2（2020）年度>

はばたけ未来へ！ ^{みやこ}京プラン2025
京都市基本計画（第3期）
<令和3（2021）～令和7（2025）年>

今回の総合教育会義において「京都市の教育に関する大綱」に位置付け

2 「はばたけ未来へ！京プラン2025」の策定

～策定までのスケジュール～

平成30年度 基礎調査

令和元年8月 京都市基本計画審議会 発足
→奥野教育委員が委員メンバーとして参画

令和2年11月 パブリックコメント実施
～12月

令和3年2月市会で議決
(基本計画策定)



2 「はばたけ未来へ！京プラン2025」の策定

京都市基本計画の構成

「はばたけ未来へ！京プラン2025(京都市基本計画)」の概要

都市理念(都市の理想像)「世界文化自由都市宣言」

市政の基本方針「京都市基本構想(2001～2025年)」

はばたけ未来へ！京プラン2025(2021～2025年)

計画の位置付け

- 基本構想に基づく第3期の基本計画(計画期間:令和3(2021)～令和7(2025)年)
- さまざまな主体と行政とが共に汗を流して協働する「共汗型・戦略的計画」
- 時代の潮流を踏まえた「未来志向の計画」

計画の背景 計画策定に当たってとくに注目すべき社会経済情勢

人口減少の本格化 地球温暖化の加速
グローバル化の進展 産業構造の転換と厳しい京都市財政
【分野横断的な時代潮流 文化力 SDGs レジリエンス Society5.0】

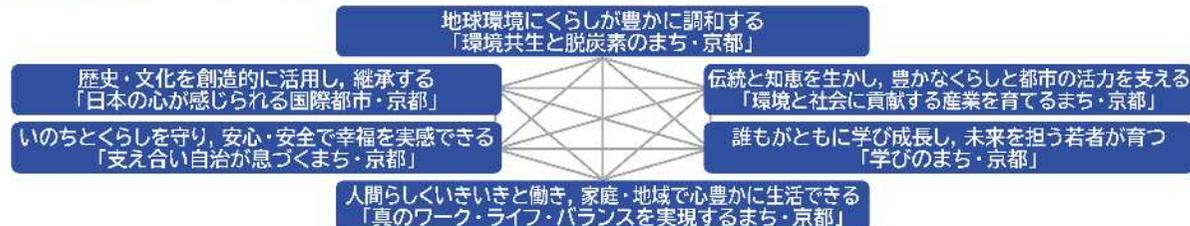
都市経営の理念 京都市の都市政策を進めていくうえでの基本となる考え方

～生活者を基点に、参加と協働で未来を切り拓く～

都市経営のあるべき姿は、自治体とその主人公である市民が自治意識を共有し、実践する、参加と協働による市政運営とまちづくりを実現することである。

わたしたち京都市民は、人口の減少や科学技術の進展、SDGs、レジリエンスの重要性の高まりなどの時代潮流を踏まえ、長年にわたり育んできた市民力・地域力・文化力を生かして、生活者を基点とした未来像を共有し、参加と協働で実現への道筋を見出し、力強い経済と都市の活力の創出に向け、共に汗を流して希望のもてる未来を切り拓く。

京都の未来像 めざすべき京都の姿



2 「はばたけ未来へ！京プラン2025」の策定

重点戦略 未来像相互の関連性に着目しながら、複数の行政分野を融合し、とくに優先的に取り組むべき事項

多様な文化を創造・発信する 「世界の文化首都・京都戦略」	都市環境と価値観の転換を図る 「脱炭素・自然共生・循環型 まちづくり戦略」	京都ならではのくみ文化が 広がる 「担い手成長支援戦略」	人生100年時代に対応する 「地域力・福祉力を高めて 支え合うまちづくり戦略」
いのちとくらしを守り、 都市の活力を支える 「強靱なインフラ整備戦略」	歩いて楽しい持続可能な 都市を構築する 「土地・空間利用と 都市機能配置戦略」	京都の文化、知恵を生かした 「社会・経済価値創造戦略」	市民生活の豊かさと 文化の継承・創造につなげる 「観光の京都モデル構築・ 発信戦略」

政策の体系 総合的な政策体系を簡潔に示すとともに、分野別計画の基本となるもの

<うるおい> 1 環境 2 人権・男女共同参画 3 市民生活とコミュニティ 4 市民生活の安全 5 文化 6 スポーツ	<活性化> 7 産業・商業 8 観光 9 農林業 10 大学 11 国際	<すこやか> 12 子ども・若者支援 13 障害者福祉 14 地域福祉 15 健康長寿 16 保健衛生・医療 17 学校教育 18 生涯学習	<まちづくり> 19 危機管理・防災・減災 20 歩くまち 21 土地・空間利用と都市機能配置 22 景観 23 建築物 24 住宅 25 道と公園・緑 26 消防・救急 27 くらしの水
--	--	--	--

各政策は相互に密接に関連するもので、政策番号は分野間の優先順位を示すものではない

行政経営の大綱 基本計画を進めていくための基盤となる行政経営の大綱

- 1 参加と協働による持続可能なまちづくり
- 2 市民の豊かさを実現するための挑戦と改
- 3 一層信頼される市役所づくりに向けた組

教育委員会
「17 学校教育」「18 生涯学習」

計画の推進

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 計画に掲げた政策の推進 | 2 計画に掲げた政策の進ちょく管理 |
| 3 計画に掲げた政策の点検・今後の総合計画のあり方の検討 | 4 国、府、関係自治体との連携 |

3 政策の体系「17 学校教育」

現状・課題

- ① **発達障害や医療的ケア，不登校・いじめなど，支援を必要とする子どもたち一人一人の状況に応じた，よりきめ細かな指導と支援の実現**
- ② **ICT（情報通信技術）やAIの活用をはじめ，英語教育等の次代を見据えた教育を推進するための環境整備の充実と，新型コロナウイルス感染症の拡大をはじめとする緊急時にも学びの継続性を図ることができる学校体制の確立**
- ③ **教職員の長時間勤務の解消に向け，さまざまな専門分野のスタッフの配置拡大，家庭や地域のさらなる理解と参画・役割分担等により，教職員がみずからの人間性や創造性を高めつつ質の高い教育活動を展開できる環境の整備**

3 政策の体系「17 学校教育」

みんなできずす2025年の姿

1 社会の宝である子どもたちを市民ぐるみ・地域ぐるみで育てている

「開かれた学校づくり」を基盤とする、**市民ぐるみ・地域ぐるみの教育**のより一層の推進により、安心安全で充実した教育環境の下で、「生きる力」を、子どもたち一人一人に育むまちとなっている。



2 子どもたちが伝統と文化を受け継ぎ、持続可能な社会の担い手として活躍している

京都ならではの伝統文化教育や環境教育，食育，生き方探究教育，健康教育，ICT教育，英語教育等，**京都の文化力・市民力等を最大限に生かした学び**を通して，子どもたちが伝統と文化の本質を学びとり，変化の激しい環境のなかでも，多様な他者と協働し，社会的課題の解決に寄与するなど，**持続可能な社会の担い手としてあらゆる場面で活躍**しているまちとなっている。

3 政策の体系「17 学校教育」

みんなをめざす2025年の姿

- 3 誰一人取り残さない、多様なニーズ等に応じた教育が展開されている教育・福祉・保健・医療等，さまざまな分野の関係機関とのさらなる連携の下，子どもたちの多様なニーズや一人一人の困り等に丁寧かつ的確に応じるとともに，ICT環境の下，学びの継続性を確保することで，障害をもつ子どもや不登校傾向の子どもも含め，子どもたちの可能性の最大限の伸長をめざすまちとなっている。
- 4 教職員が子どもといきいきと向き合うことができる環境が構築されている質の高い教育実践に向け教職員が子どもと向き合う時間をより一層確保するため，学校における働き方改革の推進により，教職員がその能力を最大限発揮できる環境を市民ぐるみ・地域ぐるみでつくとともに，子どもの学びと育ちにかかわるすべての者が尊ばれるまちとなっている。

4 政策の体系「18 生涯学習」

現状・課題

- ①市民が人生100年時代をより豊かに生きるために、**ICT（情報通信技術）も活用**しながら、文化・芸術、スポーツ等に親しむ機会を含めた**さまざまな学習機会の提供**
- ②家庭や地域の教育力低下が懸念されるなか、学校、行政機関、市民団体等の連携や支援体制の強化を図り、**親の学びや育ちを応援する取組の充実**



4 政策の体系「18 生涯学習」

みんなでめざす2025年の姿

1 市民がまちのあらゆる場で学んでいる

京都市の各図書館や生涯学習総合センターなどの生涯学習施設の機能の充実や、さまざまな生涯学習関係団体との連携の拡充により、急速に変化する社会経済情勢の下でも多様な学びが提供され、**市民が自身に適した学びを自由に選択し、継続して参加できるまち**となっている。

2 人生100年時代に向けて学びと活動の循環が形成され市民がより豊かに生きている

人生100年時代に向けて、**子どもから高齢者まで多様な世代の市民に活躍の場**があり、元気に活躍し続けられるよう、学びとその成果を活動につなげられる循環が形成されたまちとなっている。

3 京都ならではの学びを通じて多世代が交流・共生するまちになっている

京都ならではの学びを通じて市民が相互につながり、**子どもから高齢者まで世代を超えて交流**しながら、地域や暮らし、各々の生きがいをともに作り、高め合うことができるまちとなっている。